

虫生広濟寺

鬼来迎

き

らい

ごう



地獄を舞台にした因果応報、勸善懲悪を説く全国で唯一の古典的地獄劇「鬼来迎」。今年も地獄の釜が開くといわれる月遅れの盆の8月16日に、地元鬼来迎保存会のみなさんにより上演されました。会場には、全国でも珍しい仏教劇を見ようと、県内外から大勢の観客が訪れ、繰り広げられる地獄絵図に見入っていました。

また、幕間では鬼婆に抱かれた子どもは健康に育つ、と言い伝えのある「虫封じ」が行われ、場内に赤ちやんの大きな泣き声が響き渡りました。

鬼来迎は演者はもちろん、舞台の設定から衣装整備まで、すべてが地元住民の手により行われます。平成3年には東京国立劇場でも上演され、「これは素人の芸ではない」と多くの人々を驚愕させました。劇は地獄の責苦を骨子とした「大序↓賽の河原↓釜入れ↓死出の山」の四段と、広濟寺建立縁起を物語る「和尚道行↓墓参り↓和尚物語」の3段、全7段からなり、上演時間は約1時間30分です。

舞台下手の檜の陰から突然響きわたる、鏡鉢（にようはち）の音と「ホッホッホー」の奇声。うだるような暑さの中、ざわめく見物客たちがはつと顔を上げると、いよいよ地獄の幕があく。町に古くから伝わる「鬼来迎」は、因果応報（いんがおうほう）、勸善懲悪（かんぜんちようあく）を説く、全国で唯一の古典的地獄劇で、その起源は約800年前、鎌倉時代初期にまで遡るといわれ、昭和51年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。